

令和元年度 高松空港の計器着陸装置の高カテゴリー化 (CATⅢ) 検討調査業務 成果概要

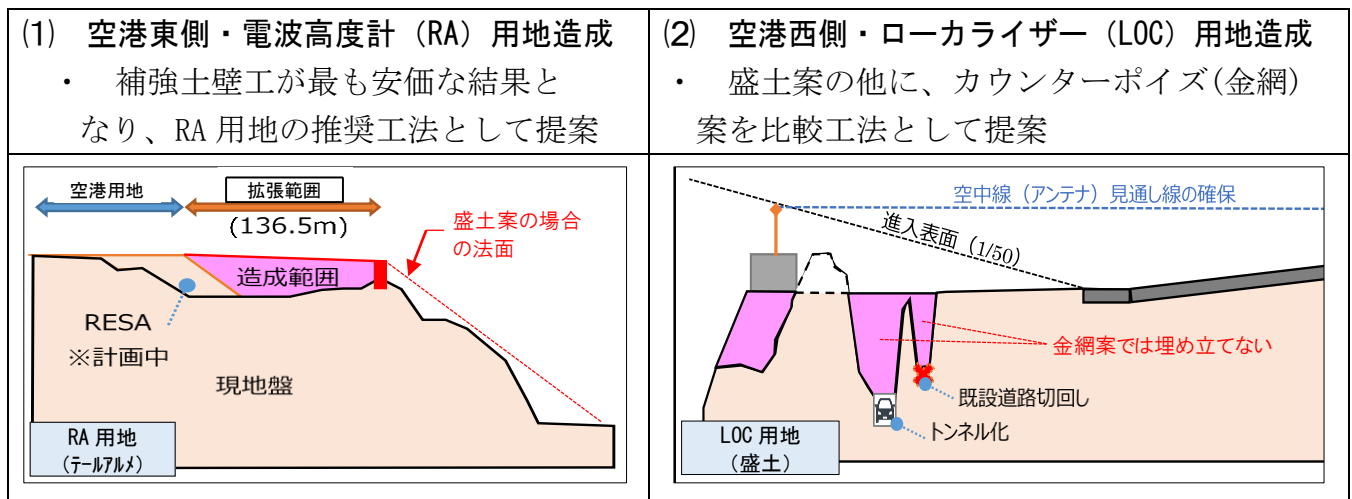
(業務目的：高松空港の CATⅢ実現に向け、費用便益比向上策を検討し、国に提案するもの)

1 費用便益比 (B/C) の算定結果

		国	ケースA	ケースB	ケースC	ケースD
需要の設定		上位	中位	中位	上位	上位
整備工法	東側 (RA 用地)	人工地盤	テールアルメ	テールアルメ	テールアルメ	テールアルメ
	西側 (LOC 用地)	盛土	盛土	金網	盛土	金網
費用		75.0 億	56.0 億	56.0 億	56.0 億	56.0 億
便益		54.0 億	59.9 億	59.5 億	63.9 億	63.5 億
B/C		0.72	1.07	1.06	1.14	1.13

2 費用削減策の検討

電波高度計 (RA) 用地、ローカライザー (LOC) 移設用地の整備工法について比較検討を行った。



3 便益向上策の検討

国の費用対効果分析マニュアルにおいて、分析対象となっていない効果について貨幣換算を行い、便益の定量化を検討した (下記の数値はいずれも「社会的割引後」)。

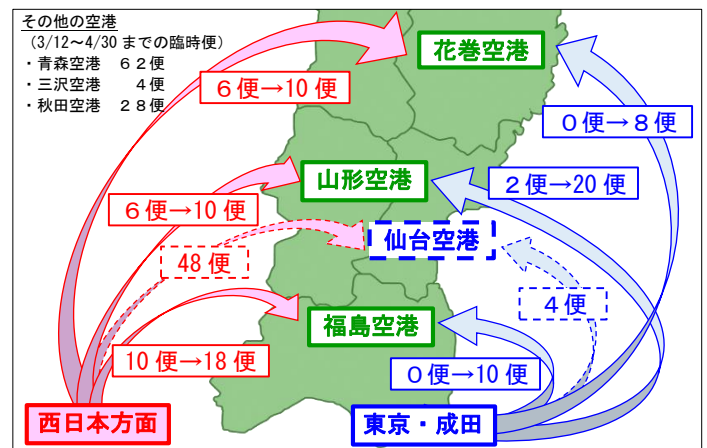
(1) 就航率改善による航空利用転換による便益

(条件付き運航便の減少による航空利用転換による便益を含む)

➡ 転換便益：約 15 億円

(2) 大規模災害発生時の機材大型化に伴う便益

➡ 機材大型化便益：約 0.5 億円



出典：国土交通省 東日本大震災における空港を利用した活動状況と課題